

2026年

風光れ

人権のたより

通算第94号 7月 9日発行

三重県立津東高等学校

一学期の期末考查もおわりました。いよいよ夏休みがやってきます。熱中症、事故等に気をつけて有意義に過ごしましょう。

○人権 LHR

今年も夏休み前の7月6日（月）に人権 LHR が学年それぞれのテーマで行われました。1 学年は人権教育に関する新入生アンケートを踏まえて「いじめ問題」について、2 学年は修学旅行を控えて「災害と人権」について、そして3 学年は履歴書の変遷と統一応募用紙から自ら「反差別の主体者となるために」として、学び、考え、行動できるように、担任、副担任の先生方からの語りかけとグループワークを行いました。



○わたしはスワスティカ ～奪われたしるしの物語～

私は、何千年も前から…国のかたちが今のように定まる前から人々のそばにいました。日本でも「卍（まんじ）」と呼ばれ、寺院や工芸品に刻まれ、幸運や調和を願うしるしとして大切にされてきました。争いよりも祈りとしてともにある、そんな存在でした。

けれど20世紀、遠く離れたヨーロッパで、私は別の名前を与えられます。ドイツで台頭したナチス党は私を「ハーケンクロイツ」と呼び、自分たちの思想の象徴にしました。そして指導者のアドルフ・ヒトラーは、わたしに特定の民族の優越を語らせ、他の排除の旗印としました。その結果、わたしの姿は戦争や迫害、そしてホロコーストの記憶と強く結びついてしまったのです。

同じ形でも、込められる意味によって、まったく違う存在になります。私は本来、だれかを傷つけるために生まれてきたのではありません。それでも歴史の中で利用され、多くの人にとって恐怖と…そして憎悪の対象となりました。

大切なのは、形だけを見るのではなく、その背景を知ろうとすることです。そして、どのような象徴でも使い方しだいで人を支える力にも、傷つける力にもなるということを忘れないでください。私の物語は、過去を学び、未来の選択を考えるための問いかけなのです。

